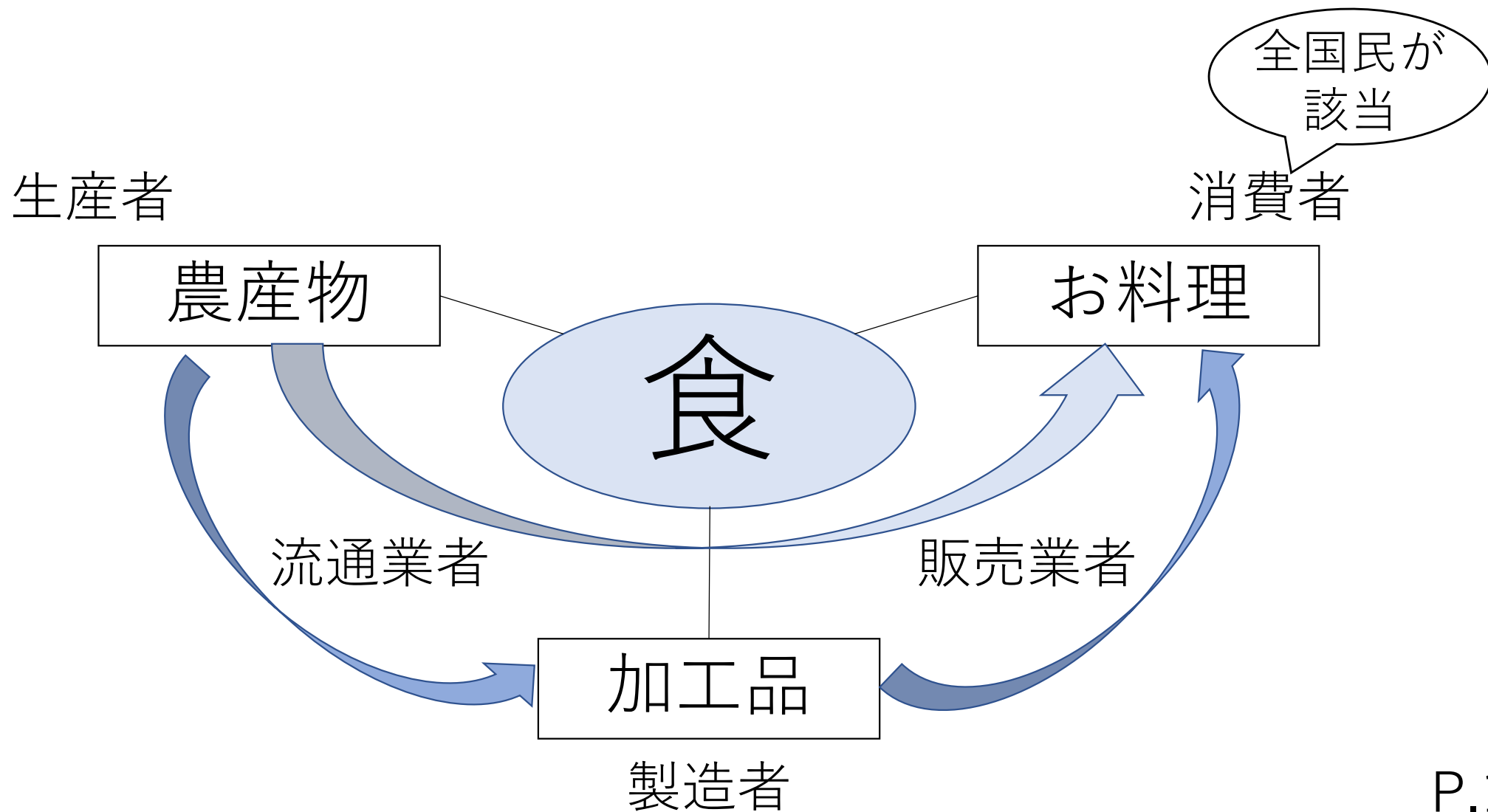


パート 1

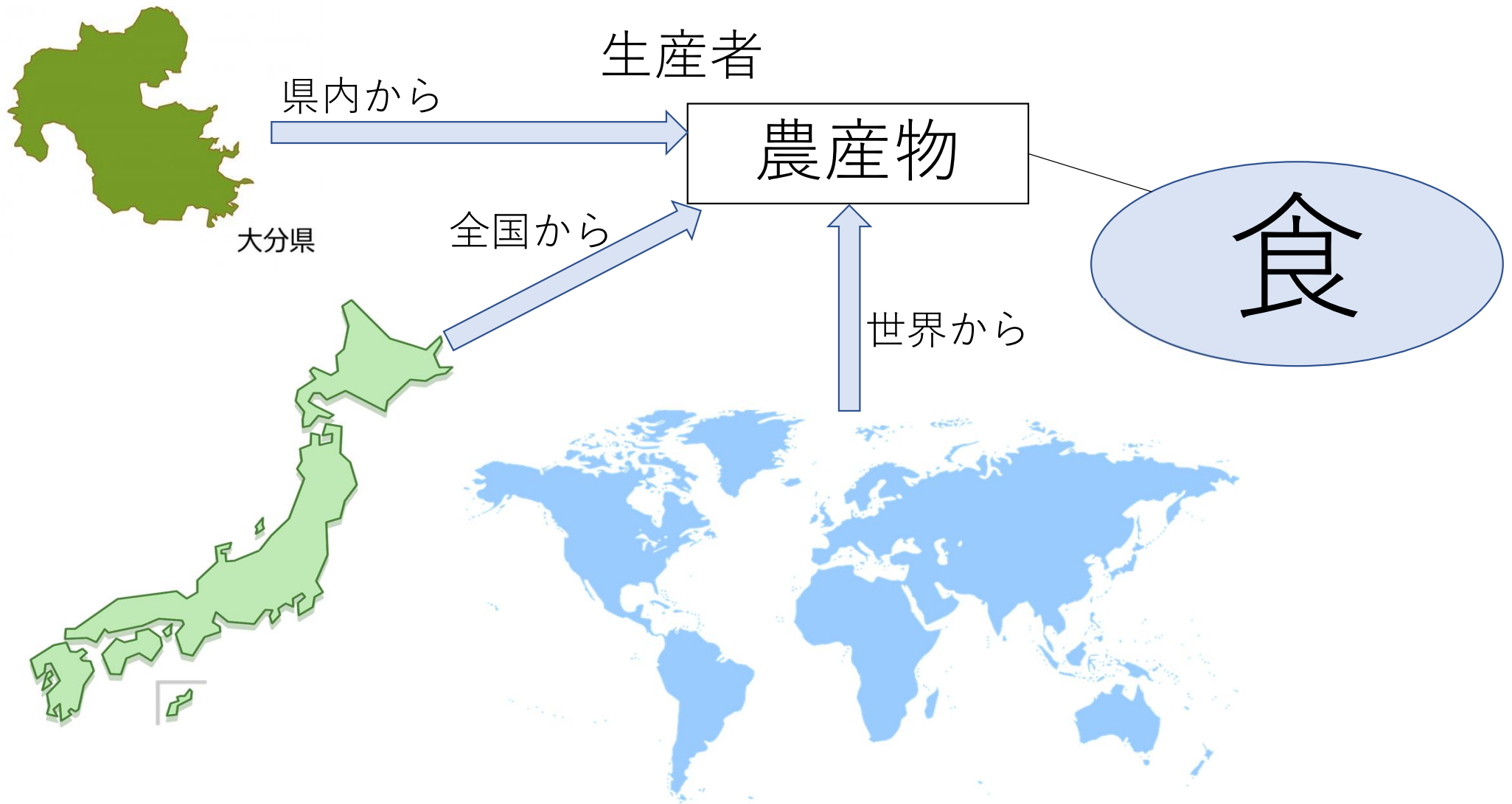
「食」を自分ごとにして

九州農政局次長 土橋 信昭

「食」を中心にみんなが関わっている

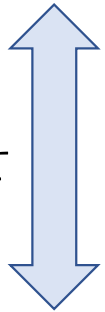


国内外から農産物が調達されている



食べる物が多様になり豊かになる一方で・・・

豊かさ



隣り合わせ

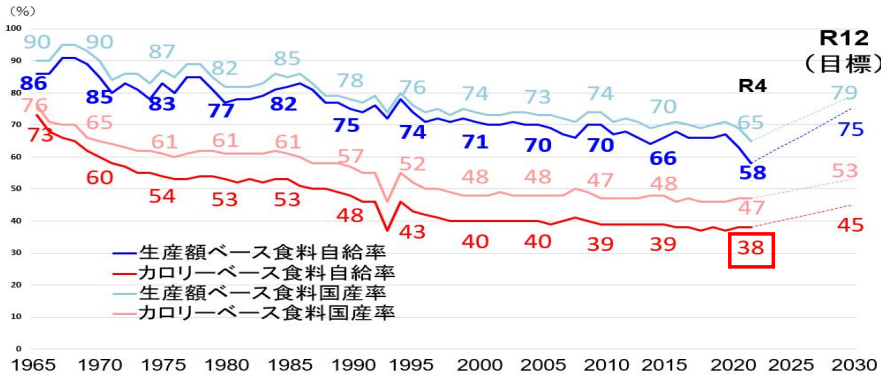
もろさ

- ・ いろいろな食べ物に出会える楽しさ
 - ・ 食べ物を迷うことのできるぜいたくさ
 - ・ 手に入れることの容易さ
-
- ・ 生産者と消費者の距離が離れている
 - ・ 食べられることの有難みが薄れてきている
 - ・ 海外からの調達に不透明感が増している

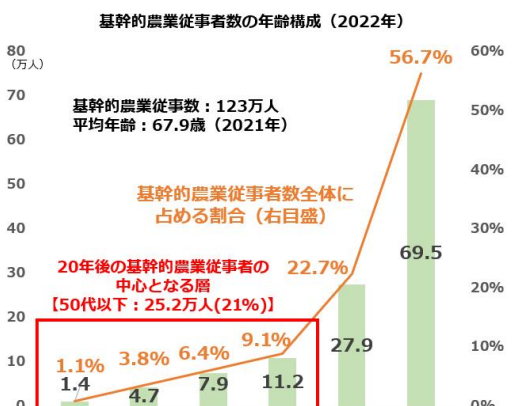
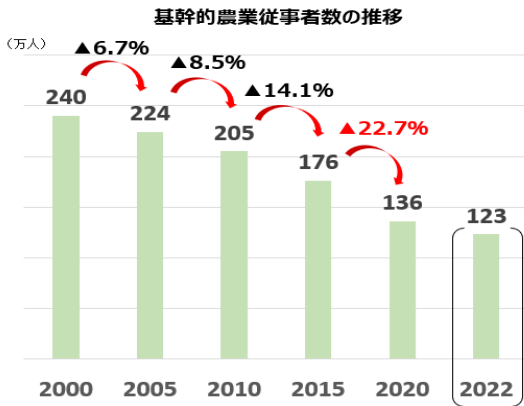
数字で見る国内外の「食」にまつわる状況

【国内の状況】

食料自給率の低迷



農業担い手の高齢化・不足

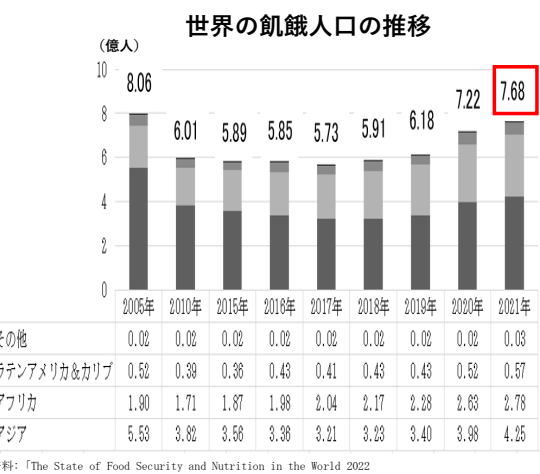
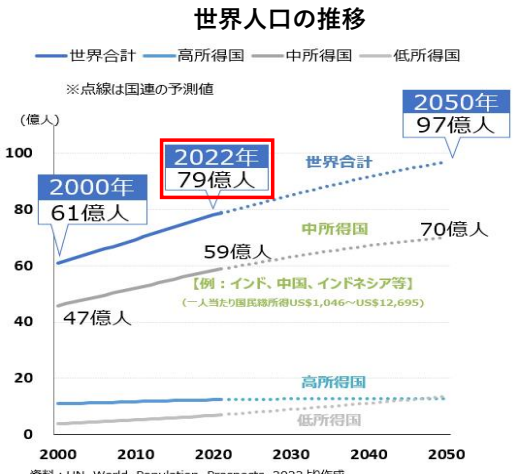


資料：農林水産省「農林業センサス」（2022年）のみ「農業構造動態調査」であり第一報。
 ・基幹的農業従事者とは、15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者（雇用者は含まない）。
 ・2010年までの数値は販売農家であり、2015年以降は個人経営体の数値であることに留意。

資料：農林水産省「農業構造動態調査」（2021年、2022年）
 注：基幹的農業従事者とは、15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者（雇用者は含まない）。

【海外の状況】

世界人口・飢餓人口の増加



穀物相場の変動



資料：シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格。
 注：過去最高価格については、シカゴ商品取引所の全ての取引目における期近終値の最高価格。

農業とは動植物の生きる力をいかして行う生業

動植物 × 太陽 × 水 × 養分 × 温度の最適組合せを追求



自然や環境と深くかかわる産業



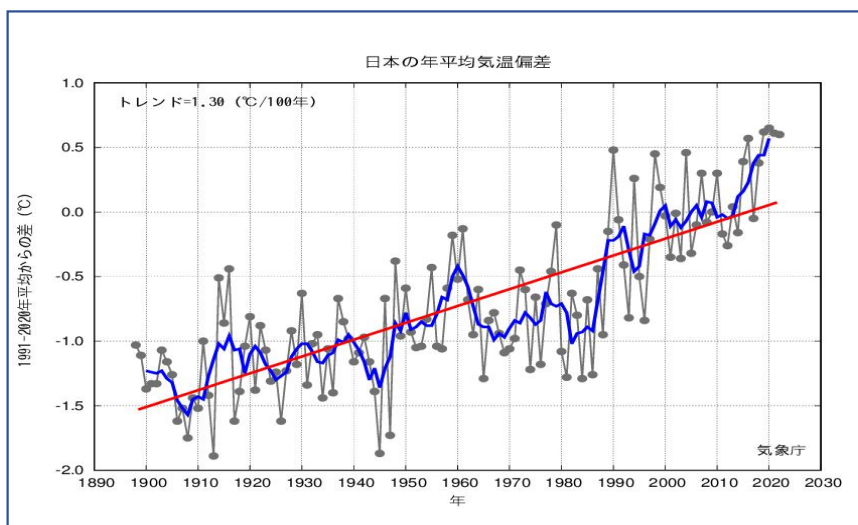
どの産業よりも自然や環境に大きく左右される特性



しかしながら農業取り巻く自然・環境は厳しく・

全国各地で記録的な高温や豪雨等が続いている

■ 日本の年平均気温偏差の経年変化

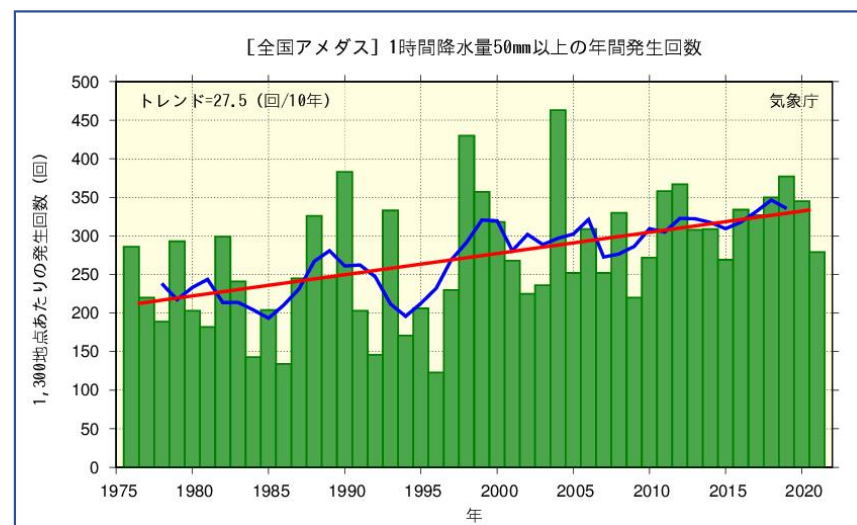


作物の収量減少、品質低下など生産現場に大きな影響



農業における重大なリスクとなっている

■ 1時間降水量50mm以上の年間発生回数



今、世界共通の目標軸は・・・

【SDGs の設定】

2015年 17の目標が設定

世界中の環境問題・差別・貧困・人権問題等の課題を世界のみなで2030年までに解決しようという目標。

例示

目標2【飢餓】

飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する。

目標7【エネルギー】

全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する。

目標13【気候変動】

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。

【地球温暖化対応】

2016年 パリ協定発効

○世界の平均気温上昇を産業革命以前と比べて2度より十分低く保ち、1.5度以内に抑える努力をする

○すべての国が、5年ごとに「国が決定する貢献」とよばれる削減目標を自主的に作成・提出することが義務

【地球温暖化対応】

国際議論の中で以下の対応を呼びかけ



CO2排出量削減！ メタン等温室効果ガス排出抑制！



海外では農業分野で地球温暖化等への対応戦略を策定

【EU】

2020.5

「Farm to Fork 戦略」策定

【米国】

2020.2

「農業イノベーションアジェンダ」策定

日本は何か戦略を策定しておくべきでは？

国際関係を円滑に進めるべく外交努力も重要であるほか、

日本の農業が、地球温暖化等の対応に国際貢献しながら
「自立性」を高め、「継続性」を確保することが重要。

こうしたことから、
2021年5月に『みどりの食料システム戦略』を策定。

「食料」≡「食べること」に関することから、
すべての国民が関わって行動していくことが大事。

国内的課題

- ・生産者と消費者の距離が乖離
- ・食べられることの有難み希薄
- ・海外からの調達に不透明感増

世界的課題

- ・地球温暖化対策への取組み
- ・CO₂削減目標を決めて行動
- ・メタン等を抑制して毎年報告



環境に配慮し、国内の地域資源をより多く活用した農業の取組みを増やし、流通・加工業者や消費者が、その重要性を理解し支持する流れを作る必要。